

電波資源拡大のための研究開発 平成19年度公募案件基本計画書の評価

案件名	実施期間	コメント
周波数の有効利用を可能とする適応型衛星通信技術の研究開発	H19-22	<ul style="list-style-type: none"> ・ Ka帯固有の技術課題について、より明確にすべき。 ・ 達成目標と実施内容との整合性を図る必要がある。 ・ 想定される利用イメージを明確にすべき。
衛星通信における適応偏波多重 (APDM) 伝送技術の研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地上移動通信系のMIMO伝送との違いを明確にすべき。 ・ 数値目標が曖昧な表現に留まっており、より具体的に示すべき。 ・ 使用予定の衛星等、実証実験を実施するにあたっての要件を明示すべき。
固体素子を用いた船舶用9GHz帯レーダーの研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電力効率や周波数安定度の数値目標も示すべきではないか。 ・ 研究開発終了後の周波数有効利用の実効性を高めるシナリオがあると良い。
マイクロ波帯、ミリ波帯の利用拡大のための機器雑音抑制技術の研究開発	H19-22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象範囲を明確にすべき。特に、対象とする周波数範囲が広いので吟味が必要。 ・ 単に数値目標の達成を目指すのではなく、設計手法の普遍化を目的として実施すべき。
広域電波強度分布測定技術の研究開発	H19-22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実的な目的に絞って、その実現に必要な達成目標を設定の上実施すべき。 ・ 本研究開発の実施範囲を明確にすべき。
複数基地局連携送信によるユーザスループット高速化技術の研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網側の負荷も考慮し、トータルシステムとして検討する必要がある。 ・ 実システムでの評価が極めて重要である。 ・ 「第4世代移動通信システムにおける～」との関係について、各々の目的等を明確にすべき。

第4世代移動通信システムにおけるモバイルQoS制御技術の研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標等をより具体的に記載すべき。 ・QoSの定義の明確化が必要である。 ・「複数基地局連携送信による～」との関係について、各々の目的等を明確にすべき。
安全運転支援システムの実現に資するアダプティブ車車間通信技術の研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確化し、「安全運転を支援する車車間通信の～」との関係を整理すること。 ・到達目標として設定されている「パケット到達率」はより厳密な定義が必要である。 ・安全に関わる技術として、従来の通信とは異なるリスク管理が必要ではないか。
安全運転を支援する車車間通信の実現に向けた周波数高度利用技術の研究開発	H19-21	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確化し、「安全運転支援システム～」との関係を整理すること。 ・チャレンジングな研究課題（自律分散システム）であり、達成目標をより明確にした上で実施すべき。 ・設定されている各種パラメータを設定した背景等を説明すべき。
ミリ波帯ブロードバンド通信用超高速ベースバンド・高周波混載集積回路技術の研究開発	H19-23	<ul style="list-style-type: none"> ・シリコンCMOS技術の研究開発により焦点をあてて推進すべき。 ・到達目標等の設定が高性能を追求しすぎていないか。